

3密回避のための居住スペース確保など 避難所での感染予防対策は

できるだけ多くの避難所を開設するなど、臨機応変に対応する



廣中 清介
無派不撓クラブ

新型コロナウイルス感染症に対応した 避難所のあり方について

- 問** 感染防止には、3密（密閉・密集・密接）を避けることが重要。避難所居住スペースを確保するための方策など、避難所での感染予防対策は。
- 答** できるだけ多くの避難所を開設するなど、臨機応変に対応する。市民の方には、在宅避難や知人親類宅等への一時避難の事前の検討、マスクや体温計の持参など、自身での感染予防対策を啓発する。
- 問** 現状の避難所、公民館、地区集会所以外の避難施設は。
- 答** 避難所に指定していない公共施設のほか、車中泊やテント泊等での避難を紹介。状況によってはホテル等の民間施設の利用も考えている。
- 問** 分散避難となった場合の避難者数の把握や、水・食糧等の配布方法は。
- 答** まず安否および避難先を地域の自主防災会に連絡してもらい、自主防災会と連携して把握する。水・食糧等の配布も、自主防災会と連携して行う。

- 問** 避難所において感染の疑いがある事案が発生した場合の保健所・医療機関との連携体制は。
- 答** 直ちに保健所等へ連絡するとともに、個別空間への移動や日常動線の区分けを行い、感染拡大の防止に努める。
- 問** 地震災害時に在宅避難を可能にするために、どのようなことが必要か。
- 答** まず耐震診断を受けていただき、倒壊する可能性があると考えられた方には、命を守るために耐震改修工事等を行っていただきたい。屋内については、家具などの下敷きにならないため、また、逃げ道を確保するためにも、家具の転倒防止措置を必ず行っていただきたい。
- 問** 在宅避難にも備えられる耐震改修を進めていくためには、どのようなことが必要か。
- 答** 耐震改修をすることで自宅で生活できる可能性が高まり、その結果として避難所での感染リスクの低減につながると考えられるので、このメリットも合わせて啓発を図っていく。



5月29日 東三河広域連合議会臨時会



古川美栄議員が東三河広域連合議会の監査委員に選任されました。

6月8日 ヘルメット着用訓練



災害に備え、議場において防災ヘルメットの着用訓練を実施しました。

6月25日 総務産業委員会研修会



自転車活用推進の取り組みを確認するため、赤羽根・六連間を自転車で往復しました。